

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000147		
法人名	社会福祉法人甲友会		
事業所名	グループホームロココ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市宝山町7番8の1号		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成25年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特別養護老人ホーム(部屋数90室)が併設されている。 平成23年6月1日より介護老人保健施設(部屋数100室、通所リハビリテーション30人、訪問リハビリテーション)も開設されている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設に併設された近代的なグループホームの玄関は和風の設えになっており、廊下は雰囲気を壊さない照明の明かりで落ち着いた環境が整えられている。住宅街の中にあるグループホームは、夏祭り、地域の神社の秋祭り、自治会主体で開催されるお茶会などに利用者と共に参加し、地域とつながりながら生活の継続ができるように支援している。併設の特養へのボランティアの来訪時には必ずグループホームの利用者も参加し地域住民との交流を持っている。日常的に近隣の公園への散歩や近隣の商店や店舗への買い物に出かけ、外で過ごす機会をもっている。外出を嫌がる方でも併設の特養の屋上を利用して外気に触れる機会を持ち、気分転換やストレス発散するようにしている。季節に応じて外出の機会も持ち利用者が五感刺激を受け季節を感じ生活を楽しめるようにも支援している。外で過ごす機会を確保するためにも、室内でも下肢筋力低下予防に努め職員介助で歩行の時間を持っている。同じ建物内にある診療所から2週間に1回の往診をしてもらい疾患・健康管理を行う体制が取られている。往診医以外の受診が必要な場合には、家族の協力を得て適切に受診ができるように支援している。併設の特養の看護師とも必要時相談できる体制も整備され日常的な健康管理も行われている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>社是・経営理念・基本方針を1枚にまとめ、必ず目にする玄関・スタッフルーム・職員トイレに掲示。また、職員の名札の裏にも入れている。</p>	<p>開設当初からの理念を掲げている。スタッフルーム・職員トイレに理念を掲示し、いつでも見ることができるようにしている。また、職員の名札の裏にも理念を明示して、常に意識してケアに取り組めるようにしている。月1回のカンファレンスの機会に利用者一人ひとりのケアの検討を行う際には、職員より理念を活かしたケアの提供が行えるように発言が見られると共に管理者からも理念を活かしたケアの提供が行えるように浸透・共有を図り実践している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>夏祭り等の地域行事への参加や近隣商店街への買い物や近隣公園への散歩をしたり、見学の受け入れを随時行っている。</p>	<p>夏祭り、地域の神社の秋祭り、自治会主体で開催されるお茶会などに利用者と共に参加し、地域とつながりながら生活の継続ができるように支援している。併設の特養へのボランティアの来訪時にはグループホームの利用者も参加し地域住民との交流を持っている。ボランティアは音楽やレビューの来訪で利用者の楽しみとなっている。歌体操のボランティアの来訪もあり利用者も参加しながら交流を持ち続けている。特養の利用者・デイサービスの利用者ともボランティアの来訪時に交流を持っている。自治会にも入会しており自治会活動の情報提供で利用者の状態や希望により参加し、地域住民とのつながりを持っているようにしている。地域の店舗や商店への買い物、近隣公園への散歩などで日常的なつながりを持ち地域で暮らし続けることができるように配慮している。事業所としての機能を活かして「認知症サポーター研修」を事業所の研修室を解放して地域の方にも参加してもらい開催している。現在管理者がキャラバンメイト養成講座に参加し、地域に向けて事業所の機能を活かして貢献できるように取り組みを検討している。中学生の職場体験の「CUL」受け入れも行っている。</p>	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を利用し、認知症予防や介護知識、パワーリハビリ等について話しをしている。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年に6回実施し、家族や相談員の意見に耳を傾けている。</p>	<p>市役所高齢施策課職員、自治会長、校区福祉委員会会長、民生委員、市社会福祉協議会職員、介護相談員、家族代表者の方に出席してもらい2カ月に1回、年6回定期的を実施している。多くの家族に参加してもらえるように全利用者家族に呼びかけ、会議が効果的に行えるように取り組んでいる。会議では近況報告で利用者の状況、事業所での活動状況等を報告し構成メンバーの方に事業所への理解をしてもらい、意見や提案など出してもらいやすいように配慮している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>豊中市役所や中央地域包括支援センターに運営推進会議の参加を求めている。</p>	<p>運営推進会議に市の担当窓口職員の方に出席してもらっており、事業所の状況把握してもらっている。地域密着型サービスの地域の集まりがあり、市の職員の方からの助言や指導・連絡を受けると共に、普段疑問や課題があればその都度、相談を行い助言や指導を受けるようにもしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>入職時の研修に「身体拘束」に関する課目を取り入れ、毎年定期研修も実施している。併設特養での身体拘束ゼロ推進委員会会議にも参加している。</p>	<p>併設施設と合同で実施される年間の研修計画の中で身体拘束について学ぶ機会を持っている。併設特養・デイサービスと共に「身体拘束ゼロ推進委員会」の活動も行い拘束をしないケアの徹底を図っている。入所時より利用者家族には、身体拘束を行わない方針である旨を説明し理解と納得を得て拘束をしない方針について徹底を図っている。</p>	<p>研修の中では、身体的な拘束に留まらず、言葉や態度・ケアなど日々のケアの中に潜む拘束や虐待につながる事例や課題がないか振り返り、話し合い・検討を行い全職員への周知徹底を図る取り組みの実践が望ましい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入職時の研修に「高齢者虐待」に関する課目を取り入れ、毎年定期研修も実施している。併設特養での身体拘束ゼロ推進委員会会議にも参加している。</p>	/	/

8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料を閲覧できるようそろえている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者やご家族と入居契約の場を設け、契約書・重要事項説明書の内容を直接伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、苦情があれば報告書を掲示している。</p>	<p>利用者家族が面会に来訪された時に、直接職員の方に意見や不満・要望を言われる。ユニットの連絡帳や苦情報告書等で管理者に報告されると共に職員間での情報共有を図っている。出された意見や要望・苦情は会議の席で話し合い、検討結果・改善策などを連絡帳や報告書で情報共有・周知し速やかにサービスや運営に反映させるようにしている。家族全員へ配布する運営推進会議への参加案内には、意見や要望を記載する欄を設けている。「ロココだより」を利用者個別に担当職員が毎月作成し利用者の生活の状況、活動状況、身体の状況等報告している。苦情相談対応マニュアルには、苦情や相談が出され改善やサービスや運営に反映させるまでの流れや記録用紙への記載方法・内容を明確にし利用者・家族の意見や要望・不満や苦情を速やかに反映させることができるように体制を整えている。家族会は開催していないが、行事前には家族にも参加呼びかけを行い参加時に家族からの意見や要望等を聴取する機会となっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニットごとに連絡ノートを置き、利用者に関する申し送りとともに意見を記入してもらっている。毎月の各ユニット会議でも意見を挙げてもらっている。</p>	<p>ユニット毎に連絡ノートに記載し意見や提案を出し、情報を共有するようにしている。毎月実施しているユニット会議では出された意見や要望・提案などを話し合いサービスや運営・業務に反映させるように取り組んでいる。ユニット会議前には、会議での検討内容を事前に明確に連絡ノートに記載検討が速やかに行えるようにする他、意見や要望・提案も会議前に聴取するようにし検討するように取り組んでいる。</p>	

12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新時や賞与考査時に評価シートを記入している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回ユニットごとにスタッフミーティング(ユニット会議)を開催している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>協議会の定例会議に参加したり、入居希望者や空き情報の連絡をとったりしている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行ったり、本人やご家族に見学に来ていただいたりしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行ったり、本人やご家族に見学に来ていただいたりしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族や他施設の担当者から話を聞いたり、入居直後は1時間ごとの記録を1週間つけたりしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>炊事・掃除・洗濯などの生活動作も手伝っていただき、自立支援を目指している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会や外出を気軽に行っていたりしている。月に1度のイベントにも参加を呼び掛けている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方の面会も受け入れている。	知人や友人の来訪があれば交流が継続できるように面会を支援している。認知症の進行に伴い知人や友人との関係の継続が難しくなる中でも、利用開始後にできたボランティアの方やデイサービス・特養の利用者とも交流が継続するように様々な場面を通して関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間。洗濯物をたたんだり、CDに合わせ歌を歌うなど、同じことができる時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の相談にのり、希望があれば併設特養の入所申込みを受け付けている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面接で聞き取りをし、「私の歴史シート・暮らし方シート」などもきにゆうしてもらっている。入所直後には細やかに行動を観察し記録している。	入所時に家族に「私の歴史シート・暮らし方シート」等に記入をしてもらい利用者のこれまでの生活や状況を把握し、思いや意向を利用者の立場に立ち考え・検討し把握するようにしている。利用開始後にも日々の様々な場面で職員が関わり話す中で、利用者の表現しきれない思いや意向・希望を把握するように努めている。 約半数の方が自ら希望や意向を明確に表現できない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居前面接で本人、家族の意向をうかがう。以後は現状に合わせたぷらんを作成し、家族に提示している。</p>	<p>面接シートで利用者・家族と面談した時に得られた情報を整理、家族から「私の歴史と暮らし方シート」に記載してもらい、得られた情報をアセスメントシートでアセスメントを行っている。アセスメントで出された課題・ニーズに沿って施設サービス計画書を作成し計画に沿ってケアの提供を行っている。モニタリングを行い計画の見直しの必要性を確認しモニタリングの結果を、月1回のユニット会議の際に職員の気づき等を取り入れ、ケアカンファレンスで計画に見直しを行っている。計画に沿って実施したことはケアサービス管理表で実施状況を明確にしている。介護記録には利用者の日々の生活の様子や職員が観察した内容、変化等を記載している。計画に沿ってケアの提供を行い介護記録に記録として残していくために、施設サービス計画書をいつでも見て確認できるようにファイルしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアチェック表や介護記録をつけている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設施設の機器やキャラバンを活用することで、運動したり大勢で外出したりが可能である。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護相談員が毎月来設。利用者の様子をご覧になり、意見を聞かせてもらっている。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同じ建物内にある診療所から隔週に訪問診療を受けている。</p>	<p>同じ建物内にある診療所から2週間に1回の往診をしてもらい疾患・健康管理を行う体制が取られている。往診医以外の受診が必要な場合には、家族の協力を得て適切に受診ができるように支援している。往診医より診療情報提供書で利用者の状態の情報提供を受けると共に、往診時のコメントや指示は、職員が情報共有できるように診療経過を記録として残している。普段と違う状況が見受けられる場合には、往診医へ報告し適切な医療を受けることができるように支援している。歯科の往診も必要に応じて受診体制が整備されている。往診医の往診・診察の結果、検査や入院の必要性がある場合には、往診医の指示により受診支援している。併設の特養の看護師とも必要時相談できる体制も整備されている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設された特養施設の看護師から、異常時には支援を受けたいせいを整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に先方の病院へ情報を提供している。入院中は見舞いに行き、様子を聞いてくる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前面接で大まかな意向をうかがっている。併設された特養への転所を進めることがある。</p>	<p>利用開始時には重度化・終末期の意向を利用者・家族に確認している。利用者・家族の意向により利用開始時より併設の特養等への入所申し込みを行ってもらうようにしている。特養等他施設への移行や積極的な医療を希望されない場合には、利用者・家族・往診医と段階に応じて話し合いを繰り返し、看取りを行うこともある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時に研修を行っている。マニュアルを閲覧できるように置いている。</p>		

35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設された特養と合同で、消防訓練を実施している。(年2回・昼夜想定)</p>	<p>併設の特養と合同で避難誘導訓練を年2回実施昼夜想定で実施している。訓練実施時には消防署へも計画を提出し自主訓練を行うと共に、今年度は消防署立会いの訓練実施を検討している。</p>	<p>併設の施設だけでなく、地域との協力体制を整備し非常災害時の体制を整備するために運営推進会議の機会を活かしていく取り組みが望ましい。</p>
----	----	--------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという尊敬の眼差しを常に持ちながら親しみを感じていただくよう心がけている。個人情報保護やプライバシーについての研修も法人内で定期的に行っている。</p>	<p>利用者一人ひとりに応じた尊厳やプライバシーに配慮したケアの提供を行うように、研修で周知し配慮している。職員は利用者個々にその人らしく、尊厳を大切にケアの提供を行うようにしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>お茶やおやつの中には希望をうかがったり、外出や入浴等は本人の意向を確かめる。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活という制約の中で、可能な限り本人のペースを最優先している。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、本人の望みに対応している。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブルを拭いたり食器を並べたり盛りつけをして、準備の段階から食事を楽しんでいただいている。</p>	<p>特養の厨房で調理された食事の提供を受けている。利用者の身体状況や希望に応じて、テーブルを拭いたり、盛り付けや配膳、下膳や後片付けなど様々な場面に参加できるように支援している。現在、普通食、ソフト食の提供が行われている。おやつは利用者のその日の状態や気分により購入に出かけたり、おやつ作りを行い楽しんでいる。昼食も計画的に、厨房から提供される食事を中止して利用者の希望や好み、季節を考え昼食作りを行うこともある。また、ドライブや外食の機会を持ち、食べる楽しみを持つようにしている。ケアサービス管理表で水分摂取も利用者一人ひとり把握し脱水予防に努めている。</p>	

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士による献立を提供している。水分量も1日1500mlを確保できるように記録している。(身体的に制限のある人は除く)</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時と就寝時には職員が、口腔ケアをしていただくようチェックしている。また訪問歯科への紹介も行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>夜間も含め、排泄パターンを記録から読み取り、適切なタイミングでトイレの声かけをしている。</p>	<p>ケアサービス管理表で一人ひとりの排泄状況・パターンを把握し、その人その人に合わせた声かけや誘導、適切な排泄用品・用具を使用し、自立に向けた支援を行っている。可能な限り体を動かし、トイレで排泄できるように手引き歩行で支援を行うようにしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取の確保とヨーグルトや食物繊維のおやつ等を提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>浴槽のまたぎが困難な利用者には2人対応での入浴やシャワー浴+足浴を楽しんで頂いている。</p>	<p>最低週2回は入浴できるように支援している。自分で出来ることは実施してもらい、見守りをする中で清潔で気持ち良く入浴できるように声かけや介助を行っている。ADLの低下により浴槽に入れられない時には、介助を2名で行い安全に入浴を楽しんでもらえるように支援している。入浴を拒否される方には、声かけや誘導を時間や人を交代しながら利用者の気持ちを大切に気持ち良く入浴できるように支援している。同性介助を原則行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居前から使用されているシングを持ち込んでいただいている。</p>		

47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者毎のケアチェック表に服薬しているくすりの内容一覧を綴じている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前面接で本人や家族から聞いたり、日々の会話から知るようにしている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>季節や時期に合わせて出来る限り散歩や外気浴を行っている。イベントとして車でのドライブ外出もおこなっている。</p>	<p>近隣の公園への散歩や近隣の商店や店舗への買い物で出かけ外で過ごす機会をもっている。外出を嫌がる方でも併設の特養の屋上を利用して外気に触れる機会を持ち、気分転換やストレス発散を行うようにしている。季節に応じて外出の機会も持ち利用者が五感刺激を受け季節を感じ生活を楽しめるようにも支援している。外で過ごす機会を確保するためにも、室内でも下肢筋力低下予防に努め職員介助で歩行の時間を持つこともある。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から3,000円をお小遣いとして預っている。散歩時の店先で購入されることもある。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら行るのが困難な方には、月に一度ご家族への近況報告を職員が代わりに書いている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の掃除を行っている。散歩の際に摘んできた花を飾ったり、手作りのカレンダーを壁に取り付けたりしている。</p>	<p>落ち着いた和風の施設のホーム内は、清潔感が感じられる。2ユニットの玄関を独立させ、廊下で両ユニットが行き来できる構造になっている。共有空間は明るく、整理整頓、清掃が行き届いている。壁面に装飾品を飾り、落ち着いてゆったりと過ごせる環境作りが見られる。併設施設の屋上庭園を活用する事も可能で、利用者は外気浴を楽しむ等思い思いに過ごしている。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには人数分のいすをテーブルのまわりに並べ、壁にはソファを置いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>クローゼットとエアコン、カーテン以外には本人のなじみのある家具を持ち込んでいただいている。</p>	<p>ゆったりとした居室は利用者の使い慣れた家具・装飾品などが持ち込まれており、利用前の生活との違和感を感じさせないように配慮し、居心地よく過ごせるよう支援している。居室はエアコン、洗面台、クローゼットが設置されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室には手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない